

しがの農 × 福 通信

令和2年(2020年)12月第8号

発行者:滋賀県農政水産部農政課

今回は、「しがの農×福ネットワーク」に御参加いただいている農家さんが障害者の方を雇用されている事例と、医療・介護分野での「リハビリテーション」に「農業」を活用する取組について御紹介します。



取組事例紹介①

農 ひのでファーム (蒲生郡日野町)

○ ひのでファームってどんなところ?何を作っているの?

ひのでファームは、里路久光さんが蒲生郡日野町で経営している農園です。お米や野菜を栽培されているほか、今年から新しくイチゴの栽培も始めました。里路さん家族で経営されてきたひのでファームですが、2020年4月から初の従業員として20歳のMさんが仲間に加わりました。また、一組のご夫婦も研修生として一緒に作業されています。現在は総勢4名で運営されているひのでファーム。今回は、期待のMさんと里路さんの出会い、現在の様子をご紹介します。



○ 里路さんとMさんを繋げた農福連携マッチング

2015年に就農された里路さんは、家族だけでの経営に限界を感じ、就農4年目頃から従業員の雇用について考えるようになりました。元々、学校の教員をされていた里路さんは、学校で障がいや困難を抱える子どもたちとの関わりもあったことから、「障がい者雇用」も頭の中にあっただけですが、誰に相談したらいいのかすら分からない状況でした。



そんな時、里路さんは就農5年目で滋賀県農業会議主催の『令和元年度 しがの農業経営塾』の講義で“農福

連携マッチング”を知りました。「これにチャレンジしてみよう!」と申し込み、NPO 法人滋賀県社会就労事業振興センターの中塚センター長(当時)や滋賀県農業会議の稲本さんなど様々な方を通じて、Mさんと出会いました。Mさんが通う作業所の方とも相談しながら、一か月に一週間の農作業を三か月間、「体験実習」として経験してもらうこととなりました。体験実習の内容は、Mさんのために特別な作業を準備することなく、里路さんが日ごろから行っている野菜の収穫作業などを一緒に行いました。このようにして、農業の魅力や辛いところなどを少しでも感じてもらうことが里路さんのねらいでした。冬の寒い中、野菜の収穫に苦戦しながらも頑張る姿が印象的だったそうです。その後、Mさんが通う作業所の方とも話し合いを重ね、本人の意思も確認し「雇用」という運びになりました。本格的に社会で働くことが決まったMさんは、楽しみ



とドキドキが半分ずつだったそうです。

○ ひのでファーム自慢の「うちのご野菜」！

ひのでファームでは、『皆さんに“美味しい”を届け、感動を生む』という理念を掲げて農作物を育てています。我が子のように大事に育て、家族や従業員が食べたいと思える安心・安全で美味しい野菜、それが「うちのご野菜」です。生産者である自分達が食べたいと思えるからこそ、消費者の方にも自信を持って提供できると考えておられます。ひのでファームの「うちのご野菜」には、右のシールをつけて近隣の直売所で販売されているので、是非探してみてください！



● 新たなチャレンジのステップにもなった雇用 ～里路さんからのメッセージ～

「新たなことにチャレンジし、ワクワクするような農園を作り上げていく。そして、消費者の方に喜んでいただきたい。今回、Mさんを採用したことで、自分達だけだと手が回らないと諦めていた夏野菜やイチゴ栽培などもチャレンジできるようになりました。」と里路さんは話します。根気のいる作業であってもコツコツと丁寧に仕上げているMさんは、多品目を扱うひのでファームにとって重要な戦力となっています。

「障がい者雇用では、一般的な雇用に比べ困難に感じることや効率が下がる場合があるのも事実です。しかし、少し工夫すれば、任せられることもたくさんあります。」と話す里路さんは、個性を尊重し居場所を作ることでその人にしかできないような力を発揮できると考えています。Mさんご自身も「雇用」という形になったことで、自分が成長できたと感じておられます。

里路さんは、これから農福連携や障がい者雇用を考えている方々へ「農福連携・障がい者雇用のハードルは低くはないです。でも、それを進めていくことで、農業者の栽培面積の拡大や品目の増加と障がい者の雇用先の増加により両者にとってプラスになります。そのように考える方が増え、両者の笑顔が増えたらいいと思います。」と笑顔で伝えてくださいました。

■概要

○ひのでファーム

〒529-1645

滋賀県蒲生郡日野町十禅師180

TEL：090-9041-0632

MAIL：hinode2015@yahoo.co.jp

HP：<https://www.hinodefarm.jp/>

Facebook：<https://m.facebook.com/hisa550323/>



☆新規事業 イチゴハウス☆

「しがの農×福ネットワーク」に御賛同いただける個人・団体等を募集しています！

「しがの農×福ネットワーク」は、「農福連携」に関心のある個人、グループ、民間団体、企業、大学、研究機関、行政機関などが、それぞれが持つ農福連携に関する情報の発信や啓発、意見交換、参加者どうしの農福連携の取組の支援などを行うことにより、滋賀の農福連携の取組を推進するネットワークです。

御賛同いただける場合は、下記の県HP掲載の参加申込書に必要事項を記入いただき、E-mail、FAXまたは郵送にて県農政課まで送付ください。

「しがの農福通信」では、御参加いただいている皆様の取組を中心に御紹介していきます。多くのみなさまの御参加をお待ちしております。

「しがの農×福ネットワーク」 | 滋賀県ホームページ（滋賀県HPへリンク）

URL：<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/seisangizyutsu/304789.html>

取組事例紹介②

「福」 「農作業をリハビリテーションに生かす取り組み」

「農作業を医療や介護に生かす取り組みをしています」

- 「リハビリテーション」と聞くと、病気やケガで体が不自由になった方が、訓練室の中で体を動かしたり、歩くような様子を想像されるのではないのでしょうか。

実は、1900年初頭に精神科病院において、精神的効能を得る目的で、農作業がリハビリテーション（作業療法）として実施されました。

- 近年、医療や介護分野で「農作業」が身体面、精神面、他者との交流、役割の獲得など社会参加といった様々な側面に複合的に働きかけ、生活の質を向上させる効果があるといわれており、リハビリテーションの手段として注目されています。
- 滋賀県では、滋賀県作業療法士会とともに、より多くの医療・介護施設で農作業をリハビリテーションとして活用してもらえるように、実際に施設で農作業を行いながら、それぞれの人・施設にあった方法を検討しています。

（現場の様子）



（休憩を促すも）
「いや、これやったらあそこまでやらなあかんやろ。」



（この作業、どうですか）
「そろおもしろいわ。これ、収穫した後に誰が買ってくれるんやろ？いくらで売れるのかな？とか想像してたら、わくわくするわ。」

リハビリとしての効果(一例)

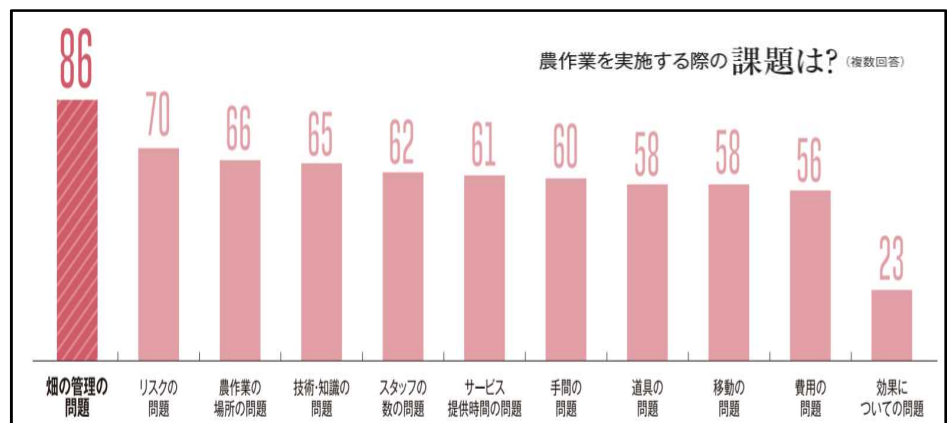
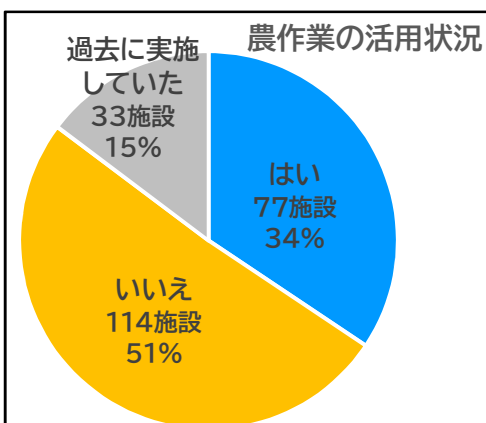
作物を管理する。

（体の機能）：バランス・腕を上げる・歩行の改善・モノをもつての移動能力等

（認知機能）：集中力・判断力・注意力・記憶力の改善、季節感を感じる等

（その他）：意欲の回復・体力の改善・先への希望・生きがいづくり

- 医療・介護現場で導入するためには畑の管理や農作業の場所、技術・知識不足など様々な課題があり、その解決法も考えながら活用を進めています。ぜひ、ご協力ください。



（滋賀県内の医療機関、介護事業所における農作業活用実践事例集より）

問合せ先一覧

<農福連携全般に関する事>	滋賀県農政水産部農政課	TEL:077-528-3812
<農業技術に関する事>	滋賀県農政水産部農業経営課	TEL:077-528-3845
<障害福祉の制度に関する事>	滋賀県健康医療福祉部障害福祉課	TEL:077-528-3542
<障害者雇用に関する事>	滋賀県商工観光労働部労働雇用政策課	TEL:077-528-3759
<子ども食堂に関する事>	滋賀県健康医療福祉部子ども青少年局	TEL:077-528-3550
<施設整備等の補助金に関する事>	近畿農政局農村振興部農村計画課	TEL:075-414-9051
<農作業受委託のマッチングに関する事>		

NPO 法人滋賀県社会就労事業振興センター TEL:077-566-8266 E-mail:info@hataraku-shiga.net

